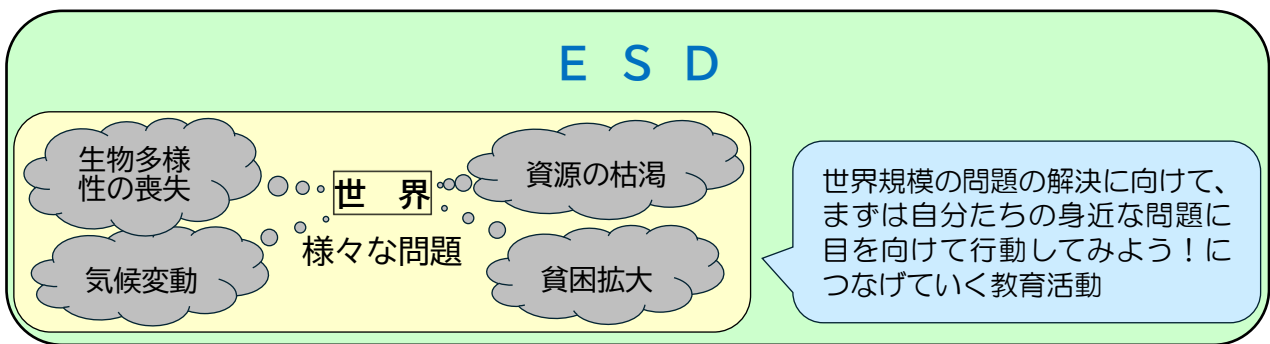


## 幼児教育研究大会を開催しました

先月、31日（木）は本園主催の幼児教育研究大会でした。保護者の皆様には、事前の大掃除のご協力と、当日の午前保育へのご理解、ありがとうございました。この日は県内外の幼児教育に携わる先生方、約180名が来園され、3つの学級の保育参観、保育協議会、研究報告、講演会にご参加いただきました。研究大会の開催は附属学校の使命の一つで、私たちの教育実践研究を地域または全国の幼児教育施設の先生方に知っていただき、現場に生かしてもらうための重要な機会となっています。今号では研究報告と講演会についてお伝えします。

### 研究報告から

本園は「持続可能な開発のための教育」略して『ESD』に取り組んでいます。研究報告では、本園のESDの取組についてお話しをさせていただきました。



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



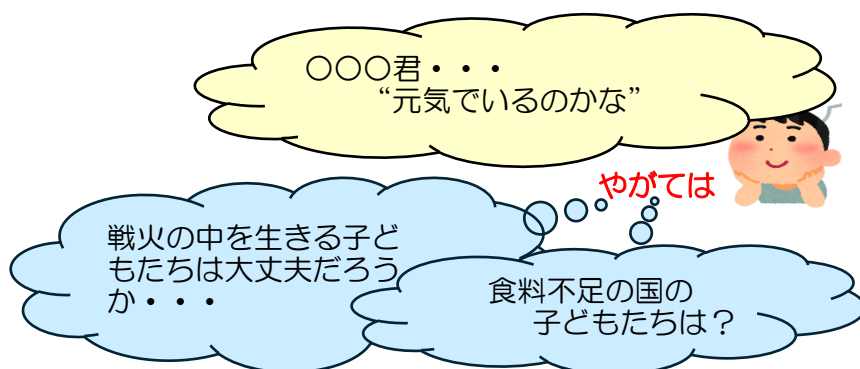
ESDは上の図のように、世界規模の様々な問題の解決に向け、まずは自分たちの身近な問題に目を向けて“行動してみよう！”につなげていく教育活動です。ESDを実践することは、左のSDGsの17の目標の達成につながります。研究報告では、ご参加くださった先生方に配布した研究紀要（研究の内容が

書かれた刊行物）を基に取組の内容をお話しさせていただきました。研究紀要を職員室前に1冊、見本で置いておきますので、時間がある時にお手に取ってみてください。難しい言葉で書かれていたり、書

いてある内容が複雑だったりする部分もあると思いますので、そのような部分についてお知りになりたい方は、君岡に遠慮なくお声掛けください。

幼児期の教育は、身近な人（先生や友達他）、身近なもの（素材や道具、自然物）とのかかわりを大事にしています。研究報告でお話ししましたが、ESDを意識した保育は「身近な」だけではなく『遠くの世界』『未来の生活』『人類以

外の生き物の営み』を思い描き『今目の前にいる友達』のことだけでなく『今ここにはいない友達』『遠くの友達』『未来の友達』について考えてみることも大事にしています。例えば、退園した友達のことを思い描き“元気であるのかな”と気遣う子どもがおり、私たちが「そうだね。元気にしているといいね」などと共感的な言葉を掛け、退園した友達のことをクラスで取り上げ、みんなで思いを馳せることは、今でもあります。研究大会当日の保育の時も、年少組の子どもたちから話題が出て、退園した友達の話になりました。ESDの観点からいえば、派手なお別れ会を催すよりも、今ここにはいない友達を思う子どもの姿こそ、本当に大事にしたい姿です。そうした姿は、やがて現代社会の様々な課題の中で生きる子どもたちのこと（上のイラストの水色の吹き出しで挙げているようなことなど）に目を向けていくことでしょう。研究報告では、そのようなこととお話ししました。ちなみに、年長組では9月に子どもたちが、実際に起きている遠い国の戦火に目を向け、思いや知っていることを伝え合っていました。こうした子どもの活動をSDGsとのつながりで見ると・・・この2つの目標につながっていきそうです（他にもあるかもですが）。



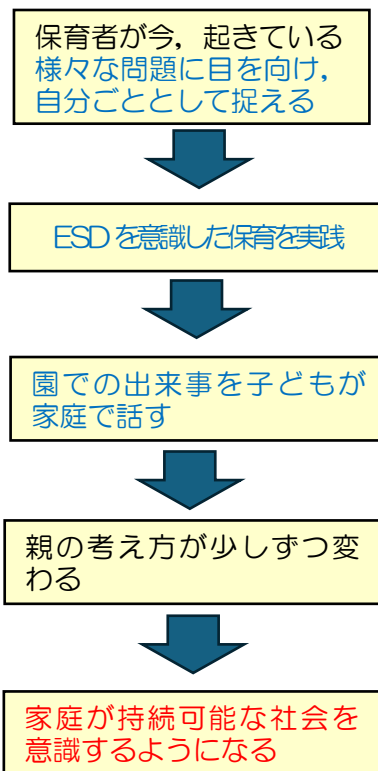
## 講演会から



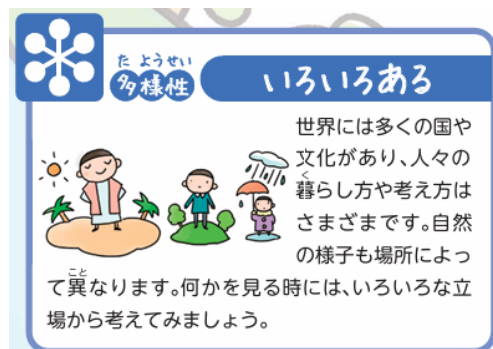
講演会は、埼玉県にある十文字学園女子大学名誉教授『上垣内伸子（かみがいちのぶこ）先生』にご登壇いただきました。上垣内先生は、乳幼児にかかわる保育に関することはもちろん、ESDにも精通しており、9月に来園していただいた際は、近年のESDの動向を踏まえたうえで、私たちの研究の取組についてご指導くださいました。その上垣内先生に「日々の保育実践の中に見出すESD」というテーマで、ご講演いただきました。幼児期からESDに取り

組むことへの意義や、全国の幼児教育施設におけるESDの実践を非常に分かりやすく、丁寧にご紹介くださいました。

上垣内先生のご講演の中で、最も印象に残ったのは『これから』を  
考えるのではなく『今』を考えるとこと。もうすでに自  
分たちの身近なところで大小様々な問題が起こっており、最近、よく  
報道される人里に現れるようになった熊ですら、環境破壊がもたらした  
要因と言われています。研究大会では年中組で、遠足に出かける安  
佐動物公園に出没した熊について、保育者が子どもたちに向けて話を  
しました。上垣内先生は、このことを取り上げられ「そのような今あ  
る諸問題に保育者が目を向け、それを自分のこととして捉え、保育が  
ESD に視点を当てたものになれば、園での出来事を子どもが家庭で話  
すのです。それを聞くことで親が変わる。そうすると家庭自体が、持  
続可能な社会を意識するようになる」と話されました（右図は）。私た  
ちの保育によって各家庭がそのようになれば、ESD に視点を当てた研  
究は意義あるものとなるでしょう。そうなるためにも ESD に視点を当  
てた研究に取り組み、着実に成果を積み上げていきたいと思っています  
す。



### 家庭でもできるワンポイント ESD



ご家庭で野菜を育てていれば、大きさが異なるものが育つ  
ことがあるでしょう。また、形が不揃いの野菜をお得に購入  
することもあるでしょう。“小さいからあまり食べるところ  
がない・・・” “お買い得！ラッキー！” だけでなく、大小  
さまざまな野菜、形がいろいろな野菜があるということを子  
どもたちが知る、ということも ESD の考え方である左の「多

様性（いろいろある）」につながると思います。「いろいろな大きさの野菜、種類や品種は同じで  
も、形が異なることもあるんだね」などと言、子どもに伝えるだけでも、多様性にかかわる子ども  
の見方、考え方は大きく変わります。